

一般小児科の外来診療で診ることが最も多い病気は感染症（いわゆる風邪、肺炎、胃腸炎等）ですが、次に多いのは気管支喘息、食物アレルギー、花粉症等のアレルギー性の病気（以下、アレルギー性疾患）です。感染症は投薬、あるいは自分の免疫の力によって病原体が体からいなくなれば基本完治しますが、アレルギー性疾患はそうはいきません。アレルギーとは、体内に入ってきた無害な物質を体が有害なものとして勘違いしてしまい、自分の免疫が過剰に反応して症状が出る、いわば「体質」です。「体質」が変わらない限りは、症状を落ち着けることができていつかはまた同じ症状を繰り返します。成長の過程で（大人になるにつれて）自然にアレルギー症状が出なくなることもあります。それまでは症状が出ないように薬や環境改善等でコントロールしなければいけません。

現在、主に行われている治療は飲み薬、貼り薬、吸入薬等がありますが、「症状がでたら止める」、「症状が出ないように抑える」という考え方（対症療法）であり、アレルギーという「体質」に変わりはありません。もちろん対症療法で治療効果が見られ、日常生活に支障をきたすことなく過ごされるお子さんが多いですが、治療によってもなかなか症状が落ち着かず大変な思いをされているお子さんがいらっしゃるのも事実です。そこで、アレルギーという「体質」を変えてしまおうというのが「減感作療法」です。この治療法は、アレルギーの原因となる物質（アレルゲン）を少しずつ摂取して体をアレルゲンに慣らしていくことで、免疫が過剰に反応しないようにする、いわば「体質改善」です。

減感作療法のうち「舌下免疫療法」と呼ばれるものは**少量のアレルゲンを含む薬**を毎日服用することで体をアレルゲンに慣らし、アレルギー反応を起きにくくする治療法です。「舌下」というのは薬を飲みこまずに舌の下から薬を吸収する方法です。減感作療法はアレルギー反応そのものをおこりにくくするため、アレルゲンに触れたり吸い込んだりしても症状が出にくくなるのが期待されます。

この治療法は以前から成人では行われていました。その適応が2018年より5歳以上まで拡大したため、小児科領域でも行いやすくなりました。当院小児科でもスギ、ダニアレルギーに対する舌下免疫療法を行っておりますので、診療をご希望の方はお問い合わせください。